

## これからの動物園に求められるもの

園長 小松 守

大森山動物園～あきぎんオモリンの森～は、さまざまなご支援をいただきながら、「動物と語らう森」をテーマにいのちを感じ、動物や自然に思いをふくらませる場をご提供させていただいております。

そんな動物園を運営していくためにはさまざまな課題に対応していく必要があります。その一つが展示動物の確保であり、さまざまな取り組みを進めています。

近い将来、日本の動物園からアフリカゾウが消えるのでは、という心配事が提示される中、大森山動物園を含めアフリカゾウを飼育する東北三園は昨年6月に繁殖のための連携協定を結びました。最初の取組として仙台と秋田の間でメスの交換を行い繁殖に挑戦しています。

また、他園のご協力もいただきユキヒョウやアビシニアコロブスなどを新たに導入した繁殖計画も始めています。実績あるレッサーパンダなどの希少動物の繁殖の成果は、他園との連携の資源にもなっています。こうした種保存は動物園がなすべき当然の仕事とも言えますが、少し趣の異なるものもあります。例えば、イヌワシなどの日本産動物

の動物園での繁殖や保全は、自然界での生息域内保全への寄与という思いも重ねたものです。種の保存は動物園を支え、野生の保全にも寄与する当たり前の仕事とも言えます。

動物園はこうしたことを進めつつ、それに伴ったさまざまな情報を発信することで動物や自然の理解に結び付けることが最大の社会的使命だと考えます。動物展示を通じて「いのち」を伝え、理解につなげることです。また「このころの時代」と言われる中、多くの人が「癒やし」を求め動物園においでになります。動物と同じ空間で一時を過ごしていただくことで、人がどう生きるのかに対しても思いを新たにすることができる場なのかもしれません。

動物園には時代が変わっても変わらないものがありますが、時代と共に変わっていくものもあるように思います。環境、生命、人々の心が揺れ動き混沌とする時代、動物園はそんな「コレ」を感じ取りながら、その存在を模索し続けていく必要があるのではないのでしょうか。



2018年7月に誕生したひなた(左)とかんた

### 特集1

## アフリカゾウの繁殖に向けて

その  
2

飼育展示担当 山上 昇

繁殖の難しさから国内の飼育頭数が減少を続けるアフリカゾウの繁殖のため、東北三園（仙台市八木山動物公園、盛岡市動物公園、大森山動物園）が昨年6月に連携・協力に関する覚書を取り交わしたことを受け、その最初の取組として当園の花子と仙台のリリーを交換することは前号でお伝えしました。本号では、花子を送り出す際とリリーを迎える際の詳細についてお知らせします。

### 花子が仙台へ出発

1990年、当園に花子が来たときは推定1歳、体重は約400kgの子象でした。それから28年が過ぎ、体重3t以上に成長した花子のような超重量級の動物の移動は当園では経験がなく、他の動物のように麻酔をかけて輸送箱に入れるという手法がとれないため、準備段階から園内でいろいろと話し合いました。移動の準備として、昨年5月に当園のゾウ担当2名が横浜市立金沢動物園とよこはま動物園で実際に使用する輸送箱の確認と輸送箱に入れる(以下、箱取り)ための研修も受けました。



6月20日、金沢動物園から輸送箱が到着し、22日から輸送箱に入れる訓練を開始しました。初めは花子にリンゴやニンジンを与えながら輸送箱への警戒心を和らげていきました。

花子は6月25日には箱に入るようになり、訓練は順調に進んでいましたが、8月14日、箱に完全に入ったところでお尻をアブに刺されるアクシデントに見舞われ、それ以降は箱に入らなくなりました。箱に入るときは「痛いとき」という思いを抱いたに違いありません。その後、花子をなだめたり、より一層のコミュニケーションを取ったり、また、訓練時間を延長したり、餌を変えたりするなど試行錯誤しながら訓練を継続しましたが、箱に入ることはありませんでした。

8月下旬の搬出日は9月25日に延期されました。さらに、園内協議の結果、搬出当日の箱取りは無理と判断し、前日に箱取りすることにしました。

輸送前日、作業は9時20分から開始され、思いの外スムーズに進み花子は約2時間で箱に入りました。花子はそのまま翌朝まで箱の中で過ごしましたが、夜間はゾウ担当

者2名が泊まり込みで見守り、ケガもなく一夜が明けました。

移動当日の9月25日は獣医師とゾウ担当者が付添い、7時40分に当園を出発しました。輸送も順調で予定通り11時40分頃に仙台市八木山動物公園に到着しました。

花子の健康状態に異常がないことを確認後、すぐにゾウ舎寢室に移動しました。花子は箱から出る際は緊張した様子でしたが、私たち飼育員の声かけにもしっかりと反応し、自力で予定の寢室に移動、なにもなかったかのように餌を食べてくれました。

当園の担当者は3日間滞在し、仙台のゾウ担当者と共同で花子の様子を見守りました。花子は移動の疲れが多少見受けられましたが、食欲は良好で、私たちゾウ担当者の号令にも反応良く従っていました。



1992年頃の花子

箱取り訓練(6月22日)



花子移動当日の様子(9月25日)



花子移動当日の様子(9月25日)



## リリーのお迎えと来園後の様子

花子の搬出後、仙台からリリーを迎える準備が行われました。寢室の中仕切りを改修し、だいすけとリリーが室内にいても互いに見えるようにしました。10月上旬には当園の担当者2名が八木山動物公園でリリーの飼育研修を受けました。

10月15日、14時頃にリリーが無事に八木山動物公園から到着しました。健康状態も良好で、すぐに寢室へ移動しましたが、リリーは落ちつきなく歩き回っていました。その後、仙台のゾウ担当者の号令に安心したのか餌を食べ始めました。右前肢足裏に輸送中にぶつけたのか裂傷がありましたが、仙台と当園の獣医師が対応し大事には至りませんでした。

移動直後から隣室のだいすけとはお見合い状態でしたが、お互い興奮することなく鼻と鼻で挨拶を交わしていました。リリーの搬入日から4日間は仙台のゾウ担当者と共同で調教と展示訓練を行い、最終日には外展示場に出るこ

とができました。

搬入当初は不安と緊張で落ち着きがなかったリリーですが、当園のゾウ担当者にも徐々に慣れ、調教等も順調に進んでいます。11月14日には、初めて外展示場でだいすけと同居を行い、2頭での展示時間も徐々に長くなり、現在、経過は順調です。

リリーは秋田の冬が初体験なので少し心配なところもありますが、無事に冬を乗り切り、春の開園では元気な姿を見ていただけるよう健康管理をしっかり行いたいと思います。



大森山到着後のリリー(10月15日)



だいすけと同居開始(11月14日)